

学生生活に関する実態調査(卒業生)報告書

令和 4 (2022) 年度

柴田学園大学

目次

I 調査の概要	1
II 調査結果	2
0. 卒業生属性	2
1. 現在の状況について	2
2. 大学生活について	4
3. 在学中の満足度について	6
4. 在学中の課外活動について	9
5. 在学中の奨学金利用について	11
III まとめ	12

I 調査の概要

この調査は、柴田学園大学学生委員会・学生課により、本大学の学生の生活の様子を把握し、今後の修学や大学生活の充実を目的とした基礎資料の収集を目的として卒業後 1 年経過した卒業生を対象に実施された。

調査期間

2023 年 3 月中旬～下旬

調査方法

卒業後 1 年未満の卒業生を対象とした。実施方法は調査項目をフォームに準備し、Web 上で回答を求めた。無記名で、個々人の結果を取り上げることはなく、個人のプライバシーに関わることはないように配慮した。

調査内容の構成

質問内容は、次の項目である。

- | | |
|----------------|------------------|
| 0. 卒業生属性 | 4. 在学中の課外活動について |
| 1. 現在の状況について | 5. 在学中の奨学金利用について |
| 2. 大学生活について | 6. 自由記述 |
| 3. 在学中の満足度について | |

有効回答数

40 名（健康栄養学科 24 名、こども発達学科 16 名）。調査対象者の卒業時（令和 4 年 3 月）の人数は 65 名（健康栄養学科 31 名、こども発達学科 34 名）であったので、この有効回答数は、対象卒業生の 61.5%にあたる。

集計結果

調査の集計結果は、アンケートの質問番号の順に表示していく。また、この集計結果で算出されたパーセンテージは、数値を小数点以下 2 桁で四捨五入して表示しているため、必ずしも合計が 100.0%になるとは限らない。

II 調査結果

0. 卒業生属性

この調査に参加した卒業生の学科と性別の内訳は、下記の表に示した。

Q1 所属学科 Q2 性別

学科\学年	女性	男性	答えない	合計
1. 健康栄養学科	24	0	0	24
2. こども発達学科	16	0	0	16
合計	40	0	0	40

1. 現在の状況について

このセクションでは、卒業生の現在の勤務先での状況についての質問を行った。

Q3 令和4年4月に報告した就職先や進学先に変更はありますか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1. 変更なし	36	90.0	23	95.8	13	81.3
2. 変更あり	4	10.0	1	4.2	3	18.8
合計	40	100.0	24	100.0	16	100.0

Q4 Q3で「変更あり」と答えた方は、現在の状況を教えてください。

選択肢	度数	%
1. 再就職した	2	50.0
2. 就職活動中(就職準備中)	1	25.0
3. 進学準備中	0	0
4. 所属先の異動	1	25.0
合計	4	100.0

Q5 現在の勤務先での職種を教えてください。（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1. 管理栄養士	14	36.8	14	58.3	0	0
2. 栄養士	3	7.9	3	12.5	0	0
3. 教員	10	26.3	1	4.2	9	64.3
4. 保育教諭	1	2.6	0	0	1	7.1
5. 保育士	2	5.3	0	0	2	14.3
6. 事務従事者	2	5.3	2	8.3	0	0
7. 販売業従事者	0	0	0	0	0	0
8. サービス業従事者	1	2.6	0	0	1	7.1
9. 公務員(教員以外)	2	5.3	2	8.3	0	0
10. 団体職員	0	0	0	0	0	0
11. 調理師・調理員	2	5.3	2	8.3	0	0
12. IT	1	2.6	0	0	1	7.1
13. 大学院生・専門学生	0	0	0	0	0	0
合計	38	100.0	24	100.0	14	100.0

Q6 現在の勤務先の種別を教えてください。(該当する番号1つ記入)

選択肢	度数	%
1. 医療・病院	8	21.1
2. 福祉・介護	11	28.9
3. 高等学校・高等専門学校	1	2.6
4. 中学校	0	0
5. 小学校	9	23.7
6. 特別支援学校	0	0
7. 大学・短期大学	0	0
8. 専門学校	0	0
9. 幼稚園(認定こども園以外)	0	0
10. 保育所・園(認定こども園以外)	4	10.5
11. 認定こども園	1	2.6
12. 金融業	0	0
13. 卸売業	0	0
14. 小売業(販売)	0	0
15. 農林漁業	0	0
16. 複合サービス(JA など)	0	0
17. 宿泊業	0	0
18. 国家公務員・地方公務員	2	5.3
19. 企画運営	1	2.6
20. 接客業	1	2.6
21. 大学院生	0	0
22. 専門学校などの学生	0	0
合計	38	100.0

現在の勤務先の状況について、教員が10名(26.3%)、管理栄養士が14名(36.8%)、栄養士が3名(7.9%)、保育士が2名(5.3%)、保育教諭が1名(2.6%)であり、卒業時に取得した免許や資格を活かした勤務が30名(78.9%)と約8割であった。

種別では医療・病院が8名(21.1%)、福祉・介護が11名(28.9%)、学校関係が10名(26.3%)、保育所・園(認定こども園以外)、認定こども園などが5名(13.2%)だった。

一方で、3月中旬～下旬の調査時においては、1名ではあるが就職・就学していない卒業生もいるため、卒業生についての就職支援も引き続き必要である。

2. 大学生活について

このセクションでは、在学時の生活と卒業後の生活との関係性について調査を行った。

Q7 大学時代の授業（実習・演習を含む）は、現在どの程度役に立っていると思いますか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1. とても役立っている	9	22.5	4	16.7	5	31.3
2. ある程度役立っている	21	52.5	12	50.0	9	56.3
3. あまり役立っていない	10	25.0	8	33.3	2	12.5
4. 役立っていない	0	0	0	0	0	0
合計	40	100.0	24	100.0	16	100.0

大学時代の授業について、「とても役立っている」が9名（22.5%）、「ある程度役立っている」が21名（52.5%）で、役立っていると回答した割合は全体の75.0%（30名）であった。

Q8 それはどんな場面ですか？

- ・食種に合わせた献立でなぜこの食材は入らないかなど、知識によって業務が理解でき行動できている
- ・調理中の衛生管理
- ・栄養指導や病棟栄養管理
- ・基礎知識が役立っています
- ・利用者様の栄養管理をする時
- ・献立作成、嚥下機能を考慮した調理、衛生等
- ・食種に対する知識があるため献立の内容を理解しやすい
- ・授業
- ・実際の調理現場で、習った内容を実践する機会が多くある
- ・現場での衛生管理
- ・管理栄養の知識
- ・衛生関係、食事形態
- ・仕事の場面で役に立っています
- ・栄養指導、媒体作り等様々な場面
- ・栄養ケア計画作成時
- ・疾患別の食事オーダーを受ける時
- ・授業実践
- ・授業の際、先生方と話をする際（他の初任と比べて、基本+αの知識を知っていると思う）
- ・ミルクをあげる時
- ・子ども同士でのケンカの場面、発達の順序、年齢ごとの配慮や留意点
- ・授業の組み立て方
- ・模擬授業
- ・授業づくり
- ・特別支援の子どもの対応をした時、指導要領の内容を踏まえて授業をした時
- ・ピアノや読み聞かせの仕方など
- ・学習指導・生徒指導をする際、校務分掌で仕事をする際
- ・保育する時
- ・教材研究をしているとき
- ・活動と活動の合間のつなぎや、保育の知識
- ・実習で経験したことや模擬授業で行った教材研究が、実際の授業に役立っている

Q9 在学中にもっと高めておけば良かったと思う力や、身につけておきたかった力についてお答えください。(複数回答可)

選択肢	度数	%
6. 柔軟性	18	11.5
7. 状況把握力	14	8.9
11. 課題解決力	12	7.6
18. パソコンを使う力	12	7.6
3. 実行力	11	7.0
10. 課題発見力	11	7.0
4. 発信力	9	5.7
9. ストレスコントロール力	9	5.7
12. 計画力	8	5.1
14. 一般的な教養	8	5.1
15. 専門的知識	8	5.1
2. 働きかけ力	6	3.8
19. プレゼンテーション能力	6	3.8
1. 主体性	5	3.2
13. 想像力	4	2.5
22. 資格の取得	4	2.5
5. 傾聴力	3	1.9
16. 英語等の語学力	2	1.3
20. ディベート能力	2	1.3
21. リーダーシップ力	2	1.3
17. 最後までやりとげる力	1	0.6
23. 学級経営についての知識	1	0.6
24. タブレット(ロイロノート等)の活用能力	1	0.6
8. 規律性	0	0.0
合計	157	100.0

*項目の左の数値は、調査した質問項目の番号

在学中に高めておきたかった力について、柔軟性 18 名 (11.5%)、状況把握力 14 名 (8.9%)、課題解決力 12 名 (7.6%)、パソコンを使う力 12 名 (7.6%) などがあげられた。今後の教育改善に活かしていきたい。

3. 在学中の満足度について

このセクションでは、在学中の満足度について、教育内容、学生生活の支援、設備等の面から調査を行った。

Q10 教育内容（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1. 大変思う	12	30.0	8	33.3	4	25.0
2. やや思う	23	57.5	11	45.8	12	75.0
3. あまり思わない	4	10.0	4	16.7	0	0
4. まったく思わない	1	2.5	1	4.2	0	0
合計	40	100.0	24	100.0	16	100.0

所属していた学科の教育内容の満足度について、「大変思う」が12名（30.0%）、「やや思う」が23名（57.5%）であった。このように所属していた学科に対し、「大変思う」「やや思う」とする回答を合わせた割合は全体の87.5%であった。一方、「あまり思わない」が4名（10.0%）、「まったく思わない」が1名（2.5%）いた。

前回の調査では「大変思う」「やや思う」の回答を合わせた割合は全体の80.4%であったことから、満足度について数値はあがっているものの、今後も満足度をあげていくための対策は継続していくことが必要であろう。

また、学科別の満足度をみたところ、健康栄養学科とこども発達学科において若干の差が見られるため、今後はその差がどのようなところから生じているのか等、詳細を調べていくことが必要である。

Q11 学生生活に対する支援（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1. 大変思う	10	25.0	6	25.0	4	25.0
2. やや思う	22	55.0	12	50.0	10	62.5
3. あまり思わない	7	17.5	5	20.8	2	12.5
4. まったく思わない	1	2.5	1	4.2	0	0
合計	40	100.0	24	100.0	16	100.0

学生生活に対する支援の満足度について、「大変思う」が10名（25.0%）、「やや思う」が22名（55.0%）であった。このように「大変思う」「やや思う」とする回答を合わせた割合は全体の8割であった。一方、「あまり思わない」が7名（17.5%）、「まったく思わない」が1名（2.5%）と全体の2割が支援に対し不満があることがわかった。

特に、健康栄養学科の卒業生の割合が高く、支援の内容により満足度に差があることが予想される。この点についてはさらにもう一步踏み込んで詳細を調べるなど、満足度をあげるための対策は必要であろう。

Q12 就職支援・キャリア形成支援（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1. 大変思う	10	25.0	5	20.8	5	31.3
2. やや思う	19	47.5	9	37.5	10	62.5
3. あまり思わない	11	27.5	10	41.7	1	6.3
4. まったく思わない	0	0	0	0.0	0	0
合計	40	100.0	24	100.0	16	100.0

就職・キャリア支援の満足度について、「大変思う」が10名(25.0%)、「やや思う」が19名(47.5%)で、「大変思う」「やや思う」とする回答を合わせた割合は全体の72.5%であった。一方、「まったく思わない」は0名(0%)だったものの、「あまり思わない」が11名(27.5%)と全体の約3割弱が支援に対し不満があることがわかった。特に健康栄養学科の割合が高いことから、引き続き早期離職など職業の選択にミスマッチがないよう支援が必要である。

Q13 図書館の環境（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1. 大変思う	17	42.5	9	37.5	8	50.0
2. やや思う	19	47.5	11	45.8	8	50.0
3. あまり思わない	4	10.0	4	16.7	0	0
4. まったく思わない	0	0	0	0.0	0	0
合計	40	100.0	24	100.0	16	100.0

図書館の環境についての満足度は、「大変思う」が17名(42.5%)、「やや思う」が19名(47.5%)で、「大変思う」「やや思う」とする回答を合わせた割合は全体の90.0%であった。ほとんどの学生は満足しているものの、学生の要望を取り入れるなどさらに満足度があがるよう整備していく。

Q14 コンピュータ室の環境（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1. 大変思う	4	10.0	1	4.2	3	18.8
2. やや思う	14	35.0	8	33.3	6	37.5
3. あまり思わない	16	40.0	11	45.8	5	31.3
4. まったく思わない	6	15.0	4	16.7	2	12.5
合計	40	100.0	24	100.0	16	100.0

コンピュータ室の環境についての満足度は、「大変思う」が4名(10.0%)、「やや思う」が14名(35.0%)で、「大変思う」「やや思う」とする回答を合わせた割合は全体の45.0%であった。一方、「あまり思わない」が16名(40.0%)、「まったく思わない」が6名(15.0%)と全体の約5割強が不満であることがわかった。満足度をあげるための支援策について、パソコン使用時のトラブル対応や特に印刷に関する問題はルールを決めるなど、早急に検討する必要がある。

Q15 その他大学の施設・設備（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1. 大変思う	6	15.0	1	4.2	5	31.3
2. やや思う	22	55.0	13	54.2	9	56.3
3. あまり思わない	11	27.5	9	37.5	2	12.5
4. まったく思わない	1	2.5	1	4.2	0	0
合計	40	100.0	24	100.0	16	100.0

その他大学の施設・設備の満足度について、「大変思う」が6名（15.0%）、「やや思う」が22名（55.0%）であった。このように「大変思う」「やや思う」とする回答を合わせた割合は全体7割であった。一方、「あまり思わない」が11名（27.5%）であったことから、引き続き設備等について整備していくことは必要であり、学生の利便性についても改善を行い、満足度があがるようにしていきたい。

4. 在学中の課外活動について

このセクションでは、在学中の部活動やボランティアなど課外活動について調査を行った。

Q16 在学中に部活動や学友会活動を行っていましたか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	度数	%
1. はい	32	80.0
2. いいえ	8	20.0
合計	40	100.0

Q17 Q16 ではいと答えた人に聞きます。何に所属していましたか？（複数回答可）

選択肢	度数	%
1. 体育部	9	22.0
2. 文化部	23	56.1
3. 学友会・実行委員会	9	22.0
合計	41	100.0

在学中に部活動や学友会活動を行っていた人は32名（80.0%）で、そのうち、体育部が22.0%、文化部が56.1%、学友会・実行委員会が22.0%で延べ41名だった。このことから、2つ以上の活動を掛け持ちしていることが分かった。

Q18 部活動や学友会活動は、現在どの程度役立っていると思いますか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	度数	%
1. とても役立っている	1	3.1
2. ある程度役立っている	12	37.5
3. あまり役立っていない	14	43.8
4. 役立っていない	5	15.6
合計	32	100.0

Q19 それはどんな場面ですか？よろしければ教えてください。

- ・ある程度どんな人とでも関わる力がついた
- ・学校行事
- ・発言する際の声の大きさ等
- ・チームで行動する場面
- ・様々な人とのコミュニケーションを円滑に行うことができる
- ・先輩との関わり
- ・自己紹介や自己アピールをする場面
- ・企画を考えること
- ・運動会
- ・積極的に動く場面
- ・緊張せずに人前にでれる
- ・校務分掌で仕事をすること
- ・話し合ったり協力して実行したりするコミュニケーション力、計画力が学校行事等に役立っている

在学時の部活動・学友会活動について、「とても役立っている」が1名（3.1%）、「ある程度役立っている」が12名（37.5%）であった。このように「役立っている」と回答した割合は全体の4割程度だった。コロナ禍もあり、所属はしていたが活動自体そのものができていなかったことも要因にあるかもしれない。しかし、その内容について具体的な記載が13件あり、コロナ禍ではあったものの在学時に経験した課外活動が有益であることがわかった。

Q20 在学中にボランティア活動を行っていましたか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	度数	%
1. はい	7	17.5
2. いいえ	33	82.5
合計	40	100.0

Q21 Q20 ではいと答えた人に聞きます。どんな活動を行っていましたか？（複数回答可）

選択肢	度数	%
2. 子どもや青少年を対象とした活動(学校行事の手伝い、レクリエーション活動など)	6	54.5
1. 高齢者・障がい者を対象とした活動(福祉施設での手伝い、見守り活動など)	3	27.3
6. 各種イベント等の運営スタッフの活動(地域のイベントなど)	2	18.2
3. 災害で被災した方を支援する活動(物資仕分け、募金活動など)	0	0.0
4. 自然や環境を守るための活動(地域の清掃活動、リサイクル活動など)	0	0.0
5. 安心・安全なまちづくりの活動(交通安全活動、防災活動、防犯活動など)	0	0.0
7. 国際交流・国際協力活動(発展途上国への支援など)	0	0.0
8. その他	0	0.0
合計	11	100.0

*項目の左の数値は、調査した質問項目の番号

在学中にボランティア活動を行っていた人は7名（17.5%）で、そのうち、子どもや青少年を対象とした活動が6名（54.5%）で、それ以外は高齢者、障がいのある方を対象とした活動、地域のイベントの運営スタッフが5名（45.5%）だった。このことから、これらの活動は2つ以上掛け持ちをしていることがわかった。

Q22 ボランティア活動は、現在どの程度役立っていると思いますか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	度数	%
1. とても役立っている	2	28.6
2. ある程度役立っている	2	28.6
3. あまり役立っていない	3	42.9
4. 役立っていない	0	0.0
合計	7	100.0

Q23 それはどんな場面ですか？よろしければ教えてください。

- ・様々な人との円滑なコミュニケーション
- ・子どもとの関わり
- ・積極的に動く場面
- ・校務分掌で仕事をする際

在学時のボランティア活動について、「とても役立っている」が2名（28.6%）、「ある程度役立っている」が2名（28.6%）であった。このように「役立っている」と回答した割合は全体の6割弱である。

またその内容について、具体的な記載が4件あった。このことから、コロナ禍の活動で制限はあったものの、在学時に経験したボランティア活動が有益であることがわかった。

5. 在学中の奨学金利用について

このセクションでは、在学中の奨学金の利用状況について調査を行った。

Q24 在学中に利用していた奨学金について（複数回答可）

選択肢	度数	%
1. 利用していない	10	19.6
2. 日本学生支援機構 第一種貸与奨学金	19	37.3
3. 日本学生支援機構 第二種貸与奨学金	15	29.4
4. 日本学生支援機構 給付奨学金	5	9.8
5. 柴田学園奨学金	0	0.0
6. 柴田学園みらい創生奨学生制度	0	0.0
7. 青森県保育士修学支援制度	1	2.0
8. 秋田県保育士修学支援制度	0	0.0
9. その他	1	2.0
合計	51	100.0

奨学金を利用していた人は40名中30名（75.0%）と全体の7割を超えていた。その奨学金のうち日本学生支援機構の奨学金が最も多く、第一種（無利子）、第二種（有利子）、給付を利用した人は利用者30名中39件で、併用して奨学金を利用していることがわかった。

Q25 卒業生として、今後の柴田学園大学に期待すること、ご意見・ご要望などがあれば、お聞かせください。また、大学への通信欄としてもご自由にご記入ください。（自由記述）

最後に、意見・要望など自由に記述をしてもらったところ、10件（25.0%）の記述があった。

（一部抜粋）

- ・初任者研修で、学ぶ内容はどれも大学で学んだことと似たようなものでした。それだけ、大学での学びは現場で活かすことができるものだと思います。日々の学びを大切にしてください。
- ・他の専門学校の生徒や教授と関われば、自分達との違いを感じられていいなと思います。
- ・大学でたくさん学んできましたが、いざ現場に出ると、知識よりも慣れることが第1優先になります。なにもわからず思うように動けなくて悔しくなることもあるとは思いますが、現場での日々の学びを怠らなかつコツコツ頑張りましょう。絶対に行動すべき時に行動できる人になれる！
- ・在学中は実習や講義には真面目に取り組むことはもちろん、自分の趣味や大事にしたいことは熱中して打ち込んだ方が、卒業してからあの頃楽しかったと辛い時の糧になると思う。社会人になってからは一人の大人として保護者や外部のお客さんと関わるので必要最低限のマナーは復習しておいた方がいいと毎日感じる。
- ・小学校の一人一台端末等を活用した授業、ZoomやTeamsのリモートでの集会のために、タブレットを用いた授業の仕方について勉強できれば、就職してから大いに役立ったと感じる。
- ・学食があると便利だと思います！
- ・将来について悩んだ時期もありましたが、たくさん悩んで決定したものに後悔は一つもありません。たくさん話を聞いて、ご指導を下さった先生方には感謝しかありません。
- ・理科の実験の授業があればよかったと思う。今、予備実験にすごく手間がかかっている。各学年のメインの実験だけでもいいので、大学が実験器具等の用意をして後輩には実験の基礎を習得してから卒業してもらいたい。
- ・社会人一年目、慣れないことばかりで大変なこともありましたが、毎日が本当に楽しかったです。同じ職場の先生方や子どもたちのおかげで、たくさん勉強し、充実した一年を送ることができました。これからも学び続ける姿勢を忘れず、頑張っ参ります。

III まとめ

「1. 現在の状況について」「2. 大学生活について」「3. 在学中の満足度について」「4. 在学中の課外活動について」「5. 在学中の奨学金利用について」の質問内容別の要約をする。最後に、これらの令和4年度の学生生活に関する実態調査(卒業生)の結果より考えられる、本学学生が卒業して約1年後の状況の特色をまとめ、今後の課題について述べる。

①質問内容別の要約

1. 現在の状況について

卒業時に取得した免許・資格を活かした勤務が8割弱だった。一方で就職も就学もしていない卒業生もおり、卒業後1年未満で何らかの理由により離職していることがわかった。

2. 大学生活について

在学時の授業が、卒業後「役立っている」と約8割が回答した。1. の設問で回答しているように、8割弱の卒業生が学科の専門性を活かした職業についていることとの関連が見られる。

在学中にもっと高めておけば良かったと思う力は、「柔軟性」「状況把握力」「課題解決力」「パソコンを使う力」が挙げられ、現在の生活で何らかの不便を感じていることがうかがえる。

また、「パソコンを使う力」は令和3年度の調査でも上位であったため、どんなところに不便さを感じているのか今後詳細に調べるなど、対策は必要であろう。

3. 在学中の満足度について

所属していた学科の教育内容について、約9割が満足していた。また、学生生活に対する支援については、8割強が満足と回答しているが、「あまり思わない」や「まったく思わない」人が2割いることから支援の種類や内容によっては不満があったと予想される。また、自由記述にもあったように、ICT活用や理科実験などといった具体的な内容も記載されており、満足度をあげていくためにもぜひ参考にしていきたい。

就職・キャリア支援については、7割強が満足と回答した。3割弱は不満があると回答しており、学科別でも満足度に差が見られるため、引き続き職業選択にミスマッチがないよう支援する必要がある。また、自由記述にもあるように社会人としてのマナーに関する内容もあり、就職内定者に対しての支援も今後は必要である。

図書館の環境については9割が、コンピュータ室については4割強、その他大学施設については5割強が満足と回答している。特に、コンピュータ室は「あまり思わない」「まったく思わない」人が全体の5割強いることから、今後詳細について調べ、満足度を上げるための対策が必要である。

4. 在学中の課外活動について

在学中に部活動や学友会活動などの活動に参加していた学生(80.0%)の約4割が、卒業後の生活で役立っていると回答している。コロナ禍もあり、部活動や学友会等に所属はしていたが、活動自体が実施できていなかったことも要因の一つと言えるだろう。

どんな場面で役立っているかは、具体的に「コミュニケーション」「協調性」「運営」などがあげられた。

ボランティア活動では、「子どもとの交流」や「様々な人とのコミュニケーション」など、人との関りの部分で特に有効であるといえる。

5. 在学中の奨学金利用について

回答者の7割を超える人が奨学金を利用していた。併用して奨学金を利用している人が多いが、今後は返還状況や困難を感じていないかなど詳細を調べる必要がある。また、在学中から返還に関する内容をきちんと理解してもらえるよう、引き続き、各種ガイダンス等において説明をしていく。

②最後に

本学の学生の特徴は、資格・免許など学科の専門性を活かした職業に就いていることと就職率の高さと離職率の低さである。卒業して1年後、約9割が就職していることがわかり、離職率は低い傾向にある。これは「2.大学生活について」の結果で、大学時の学びが卒業後に活かされていることや教育内容の満足度が高いこととも関連している。

学生生活や就職支援の満足度では学科で差が見られるなど、何かしらの問題点があることが予測される。このことについては今後詳細に調査し、満足度をあげるための対策が必要である。

在学中の課外活動については、コロナ禍もあり活動が制限されたり、通常通りの活動ではなかった部分もあると思うが、本学が長年培ってきた学友会役員が中心となり諸行事を運営する実践活動がキャリア形成の一助となっていることがうかがえる。今後も学生を中心とした活動に対する教職員の助言、指導による適切な支援を継続する。

卒業生の現状と在学時の状況について詳細に知るために、回答しやすい期間の設定や質問内容の充実など、実態調査全体の改善を図り、学生支援の有効な資料となるよう更に努めていきたい。

学生生活に関する実態調査(卒業生)報告書

令和4(2022)年度

令和5年9月1日発行

編集：柴田学園大学 学生委員会・学生課

発行：柴田学園大学出版会

〒036-8530 青森県弘前市清原1丁目1-16

TEL 0172-33-2289

FAX 0172-33-2486

<https://univ.shibata.ac.jp>